

カルーナ10周年によせて

2015年2月に開所式をしてから10年。4月1日に2名の入居者に始まり、それから約50名の利用者と出会い、旅立ちを応援してきました。「自立援助ホームとは何か」もわからずに、「必要とする人にスペースをつかってもらう」「私たちができることは共に泣き共に笑うこと」と開所を決めましたが、福祉事業所ではないYWCAにとって、たくさんの「泣き」「笑い」とチャレンジの日々でした。何が正解かわからないまま、利用者一人ひとりの声を聴きながら、カルーナが「セーフスペース＝安全（暴力に晒されない/受けない）安心（誰かとつながってここにいていいと思える関係性）の場」になることを目指してきました。

この10年、ほぼ常に定員いっぱいの利用者を受け入れてきました。利用期間も平均2年半を超える（最短3週間から最長4年半）ため、3年前に定員6名を7名に増やしました。利用者の低年齢化に伴い高校生も増えました。社会の変容とともに利用者の退所後も変化してきました。カルーナが利用者を管理したり制限を課すのではなく、利用者が利用したくなる場所であり、つながりたいと思える大人として関わっていくことで、「生きていてもいいかも」と未来に向かって一歩踏み出す足がかりとなるホームであり続けることができればと願います。

（ 山本 知恵 ）

リビングのソファ、新調しました！



入居者、退所者、スタッフのみんなが憩いの場として過ごすリビングに、とても素敵なソファが来ました。それは、一度座ると立ち上がれない、思わず横になりたくなる素晴らしいソファです。

近年、高校生の入居者が増えたせいか、以前よりリビングに出て交流する場面や、それぞれ別のことをしていても一緒に座っている姿、疲れて横になっている様子を見かけることが増えた気がします。そんなカルーナの住人に欠かせないソファは、設立10周年を迎える今年、「一般財団法人 篠原欣子記念財団」様の助成を受けて新しく購入しました。この場をお借りして感謝申し上げますとともに、これからの10年の歩みに向けて、多くの利用者やスタッフの交流の場、癒しの存在として、大切にに使わせていただきます。

（ 三上 彩 ）

カレーナ退所者の声

現在、24歳の退所者Mさんにおはなしを聞きました。カレーナを出てどのような生活してきたのか、今の思いを話してもらいました。



カレーナを2018年7月に退所しました。しばらくはカレーナと連絡を取ったり、来所することもなかったです。生活環境が変化して、あじさい保育園で保育補助として雇ってもらいました。園児と関わる中で、特性のある人との関わり方などで悩み、発達や障がいについて興味を持ちました。介護の初任者研修を受けることを勧められ、放課後デイサービスで働きました。実践での経験はとても勉強になったと感じていて、本を読んでいるだけではわからないことばかりでした。

長岡京市の保育園で働いている時に、体調がおかしくなり、「パニック障害」の診断を受けました。そのころからYここのキッチンスタッフとして働き始めました。

昔、カレーナスタッフから「バイトを頑張りすぎて倒れてしまうため、倒れる前に休めるように」と言われたことを今でも思い出します。そして、そのスタッフに会うと、今も心配してくれます。

今まで、何度もつまずき、暴力を外から隠されていて、相談できる相手がいなかったです。それでも立ち直れたのはカレーナのおかげだと思っています。一時保護所から抜け出し、受け入れてくれたのはカレーナでした。たくさん攻撃したのに、自分と向き合ってくれました。それはカレーナを出てからも同じで、新年会のはがきや、誕生日カードは嬉しかったです。繋がっていると感じ、心強かったです。今後は自分をつぶさない程度の仕事、自宅でできる仕事があればしてみたいです。

(Mさん)

子ども・若者居場所事業「YここKitchen」報告 参加者の声に応えつづけるために

「最近の楽しみはYここのご飯！」昨年度末に行ったアンケートに書かれていた参加者の声です。4年目を迎えた2025年度は、「カゴメみらいやさい財団」様から助成金50万円をいただき、参加者へ無償で夕食提供を続けています。

「体験イベントがあったら楽しいかも」「物資提供がありがたい」という声があり、これまでBBQやメイクアップ講座などさまざまなイベントを実施してきましたが、今年度は予算が充分にとれておらず、実施頻度が未定です。年に2回行っていた物資提供も、価格高騰の影響を受けながら参加者に十分に支給するにはどうしたらよいのか、スタッフで話し合いを重ねているところです。

「Yここは楽しくて安心できる」「みんなに出会えてよかった」「家ではないけど、帰れる心の拠り所」とアンケートに複数ありました。Yここに“セーフスペース”を感じてくれている参加者に引き続き安心できる居場所を開放するために、皆様からのご寄付を受け付けております。ご支援をよろしくお願いいたします。

(古川 由布子)



ご寄付はこちら！



シリーズ後援会会員便③

カルーナ後援会員の方々より、これまでのカルーナとの関わりや、若者の置かれている状況や課題についての寄稿を連載していきます。

カルーナが開所して10年。このように社会的に重みのある事業に踏み出す不安もあったと思います。が、この間、退所者支援から始まった「YここKitchen」という居場所に繋がったり、福岡・横浜に第2・第3のカルーナができたりと、確実にカルーナはその種を蒔いていると思います。

私は2年ほど前まで月2回の宿直当番をしていて、たくさんの入居者と出会いました。なかなかコミュニケーションの難しい人が多い中で、結構気軽に話してくれる人もありました。こんな「おばさん」、いやいやほとんど「ばあさん」の相手をよくしてくれたなあ、と思い出します。私の朝食の定番メニューを楽しみにしてくる人も時々いて、嬉しかったです。10周年の記念イベントの折には交流会で、退所者の皆さんや他の後援会の会員さんたちにお会いできるのが楽しみです。（神門 佐千子）

新年会とホームカミング

今年も恒例の新年会&ホームカミングを1月11日土曜日に開催しました。第1部として今年20歳の1名を含め希望者6名が好みの晴れ着と帯を選び、着付けとヘアメイクを施していただきました。第2部の新年会&ホームカミングには入居者・退去者11名と職員4名が参加しました。会員からピザ・手作りケーキ・フルーツなどの差し入れをいただきビュッフェ形式でにぎやかなひと時を持ちました。なぞなぞ・カラオケ・ビンゴ大会で盛り上がった後は、各自、今年の抱負を発表しました。「卒業・受験を頑張る」「人の幸せを願える人」「今までの出会いや繋がりを大切に」など、まわりの人も自分も大切にしようとする姿が多くみられました。今年も懐かしい笑顔にたくさん出会うことができました。着付けのご協力をいただきました「京都わかさねっ」と様に感謝申し上げます。（岩佐 恭子）

10周年イベントに向けて 『死ぬまで生きる日記』を読んで

10周年を記念して講演会と茶話会を行います。講師は『死ぬまで生きる日記』の著者の土門蘭さんです。本は、10歳の頃からほぼ毎日「死にたい」と思っているのはなぜなのか、オンラインカウンセリングを受けた約2年間のカウンセラーとの対話やさまざまな変化について書かれています。その変化に読了後に励まされました。ある人にとっては、少しずつ読み進めては一呼吸が必要かもしれません。普遍的なことは、読む人が自分自身と対話することになるから。一方で、ある人にとっては、すらすらと読み進めることができるでしょう。それは、多くの会話があることやわかりやすい表現が散りばめられており、絵が浮かびやすいから。

本書を読んだきっかけは、カウンセリングがどのような感じなのかと人それぞれ違うだろう「死にたい」を知りたかったからです。もしかしたらタイトルから暗い印象を持たれる方もいるかもしれません。そんなことはなく淡々とさり、柔らかさがあります。

カルーナでは入居者がそれぞれのしんどさに日々揺れ動く姿を見ることがあります。本人が長く付き合う必要があります。終わりが見えないと感じるものに押しつぶされそうになる。みな人それぞれに大なり小なりあるものだと思います。どこまでも自分自身が面倒をみて舵取りをする。そんな時、自分を信頼して寄りかかり、また寄り添うことができたなら、きっと安心できる。本の中では、「自分が自分のお母さんになる」とあります。読んだ時に、それぞれにお守りを持てたらいいのになあと思いました。本書を読んでからのご参加、お話を聞いてから本を読む。どちらもいいので、ぜひご参加ください。当日、書籍の販売も予定しています。ご興味・関心のある方にこのイベントが届きますように。

（高橋 夏梨）

「カルーナよこはま」が開所しました！

2025年4月より横浜YWCAにて「カルーナよこはま」が開所しました。YWCAとして3カ所目の自立援助ホームとなります。心強い仲間がで、嬉しく思います。これからも若い女性支援をそれぞれの場所でしていきたいと思ひます。

ご支援に感謝します（カルーナよこはまより）

クラウドファンディングでは、目標金額150万円を超えるご支援をいただき、無事達成することができました。京都の「カルーナ」を支える本当に多くの皆さまから「カルーナよこはま」へもご協力をいただきました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

～カルーナ10周年記念イベント～ 【自分自身と向き合うということ ～居場所のつくり方～】



日時：2025年7月5日（土）13:00～15:30

場所：日本基督教団室町教会

講師：土門 蘭さん『死ぬまで生きる日記』著者
詳細は、イベントチラシをご覧ください。

寄付のお願い

カルーナ事業部委員会では、自立に向けて生活をしている若者が一人暮らしを始める際の準備に加え、退所後も多様な支援をしています。継続的な支援と居場所の運営のためにご支援をお願いいたします。
払込用紙または右記QRコードより受付けております。



【在籍者2025年1月～2025年6月】

	15歳以下	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳以上
1月	0	0	1	3	0	1
2月	0	1	2	3	0	1
3月	0	1	2	2	0	1
4月	0	1	3	0	0	1
5月	0	1	2	0	0	1
6月	0	1	2	0	0	1

ご寄付ありがとうございました

2024年11月28日～2025年3月31日

寄付・寄贈・教育奨励基金・後援会会員（順不同・敬称略）

〈寄付〉

有田 孝子 神岡茂子 横江美佐子 平野富希 岡佑里子
高山亨 伊原千晶 西文子 島崎明子 伊藤眞一郎
重谷秀星 井上里佳 岩崎明生 大山悠子
京都府更生保護女性連盟「愛の図書」
日本聖公会桃山基督教会婦人会
株式会社Survey Solution齋藤大輔
日本聖公会聖アグネス教会
日本基督教団京北教会 ペスタロッツ保育園
日本基督教団京都丸太町教会
日本基督教団京都丸太町教会 シオン会
日本基督教団京都府京都市南部地区
匿名1名

〈寄贈〉

泉谷直木 木村こずえ 鳥居尚子 宮川知子 竹森洋子
安藤いづみ 城下成美 三重野久美子 御前明美
名古屋恵子 山添琢 御前麻里
桃山基督教会婦人会
株式会社ハートフレンドFRESCO 匿名2名

〈教育奨励基金〉

神門佐千子 小杉總子 伊東真喜子 斎藤洋子 御前明美
近野玲子 篠田茜 匿名2名

〈後援会費〉

榎本愛美 神門佐千子 高山亨 定本ゆきこ 永井潤子
伊原千晶 今村武廣 竹之下雅代 宮川道子 水野篤夫
大山悠子 斎藤常子 井上依子 斎藤洋子 都木かおり
日本基督教団室町教会オリーブの会

〈子ども・若者居場所事業YここKitchen〉

有田孝子 平野富希 高山亨 重谷秀星 平野裕之
井上里佳 斎藤大輔 吉澤道子 大賀佐代子 井上ゆかり
心よりの感謝を添えてご報告申し上げます。なお、万が一、記載漏れ、お名前に間違いがありましたら、ご容赦いただくと共にすぐにご連絡下さいますようお願い申し上げます。



＼カルーナ後援会員募集しています／

カルーナでは、後援会員となり、社会的養護が必要な子ども・若者への自立を継続的に共に支え、応援する仲間を募集しています。

安全・安心な場、そしてエンパワメントする機会を提供していくために、ご協力をお願いいたします。

後援会員：個人 3,000円（年間）

団体 5,000円（年間）

* 同封の払込用紙よりお願いいたします。